

2022年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義

開催日時：2023年2月21日（火）・22日（水） 10:30～15:00（10:00開場）

※21日は大東文化会館での対面開催、22日はZoomでのオンライン開催です

連絡先：dbu.postgrad.enlitt@gmail.com

参加費：無料 英米文学科の学生の参加も大歓迎です！

ご参加希望の方はこちらのURLまたは、二次元バーコードにて必要事項をご記入の上、

2月17日（金）までにご予約ください！

<https://forms.gle/WdT5dpoWHooyAxc68>



2/21(火) @大東文化会館

10:30 ～ 12:00	男性性の現在と批評 専修大学 国際コミュニケーション学部 教授 河野 真太郎先生	今や「第四波フェミニズム」の名も与えられつつある#MeToo 運動などの新たなフェミニズム運動の盛り上がりの中、男性性には何が起きているだろうか？フェミニズムに対してはルサンチマン的な反応が目立つ中、そのような反応を解除し、分断を超えるためにはどうすればよいのだろうか？本講義ではそのような問題意識から出発し、拙著『新しい声を聞くぼくたち』（講談社）の内容を紹介しつつ、男性性の現在とそれに応じた批評のあり方を考えてみたい。
13:30 ～ 15:00	文学テキストの<リアリティー>は、 どこからくるか ——創作の立場から観察する 大東文化大学 名誉教授 中村 邦生先生	文学テキストに対面していると、言葉が奇妙な歪み、ずれ、屈折、あるいは遅滞を示す箇所こそ、リアリティーを感じることがあります。これこそ読み手にとって絶好の感応の場との遭遇です。どのような事態なのか、創作者の立場から考えます。具定例を示すつもりですが、詳細は未定です。あらかじめ準備しすぎると意気上がらない人間ですので、当日はいっしょに即興的な思考の動きを楽しみたいと思います。「即興」とは講義の本義に関係したことであり、その理由をベンヤミンの言葉とともに紹介します。

2/22(水) @オンライン(Zoom)

10:30 ～ 12:00	グレアム・グリーンと冷戦 四国大学 文学部 国際文化学科 教授 阿部 曜子先生	グレアム・グリーンは、文学史上で分類されているような「カトリック作家」に収まる作家ではない。本講義では、彼が20世紀後半の世界情勢に強い関心を持ち、米ソ二大超大国の狭間で揺れる小国で取材し、記事をメディアに送り、そこを舞台にした作品を生み出したことに注目する。世界が新たな分断構造に直面している今だからこそ、一人の作家を「冷戦」という文脈で捉えなおすことは意義あることだと思われる。
13:30 ～ 15:00	イン/ポライトネス研究の潮流と マウンティングのコミュニケーション 大阪工業大学 工学部 総合人間学系教室 講師 大塚 生子先生	「ポライトネス」というと「丁寧さ」が想起されますが、語用論分野では「丁寧」に限らず「心地よいコミュニケーション」を研究する分野を指します。しかし日常には不愉快な場面も多く、近年のポライトネス研究はインポライトネスを含む、より幅広い関係性のコミュニケーションを対象に研究されるようになってきました。本講義ではこれまでのイン/ポライトネス研究を概観し、みなさんもよく耳にするであろう「マウンティング」「マウントを取る」と呼ばれる行為を取り上げて、その特徴となぜ「いやらしい」のかを、談話分析を通して考察します。